



第 1829 回例会

平成 27 年 4 月 27 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4 階

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「手に手つないで」

3. 出席報告

会員総数 48 名 出席者数 31 名
出席率 64.58 % 前回修正出席率 77.08 %

4. 会長スピーチ

みなさん、こんにちは。4月も最終週になりましたが、今月は雑誌月間でした。ロータリーの友の4月号では雑誌で知るロータリーというタイトルで特集が組まれています。それから近いうちにお手許に届くと思いますが、国際奉仕委員会から台湾彰化東南ロータリークラブ 20周年記念式典出席のための訪問に関するFAXをご覧の上、一人でも多くのみなさんのご参加をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。お願いついでに、たんぽぽの会の催しが5月17日(日)に浜の宮ビーチで開催されます。天候に恵まれることは勿論のこと一人でも多くのみなさんのご参加をお願いします。ありがとうございました。



5. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山東 R C 5月 14 日 (木) → 5月 12 日 (火)
12:30~ ダイワロイネットホテル
(和歌山 R C との合同例会)
那智勝浦 R C 5月 14 日 (木) → 5月 14 日 (木)
12:30~ 職場訪問
(紀の松島巡り)
5月 21 日 (木) → 5月 21 日 (木)
12:30~ ホテルなぎさや
5月 28 日 (木) → 5月 28 日 (木)
12:30~ 座禅例会 海翁禪寺

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①眞実かどうか
- ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か
- ④みんなのためになるかどうか

2014-2015年

海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

○休会のお知らせ

和歌山中 R C 5月 1 日 (金)
和歌山南 R C 5月 22 日 (金)
和歌山東南 R C 5月 27 日 (水)

○5月のロータリーレート

1 \$ = 118 円

6. 委員会報告

○国際奉仕委員会

委員長 谷脇 良樹 君

6月 24 日から 26 日まで、台湾彰化東南ロータリークラブ 20周年記念式典への参加について、配布のとおり、ご案内いたします。多くのご参加をお願いいたします。

○会報・広報雑誌・I T 委員会 委員長 寺下 卓 君

4月は雑誌月間です。ロータリーの友を読んでください。また、創立 40周年記念事業の本の寄贈について投稿したいと考えています。

○社会奉仕委員会

委員長 田中 祥秀 君

たんぽぽの会との交流会を5月 17 日(日)、浜の宮ビーチで行います。皆さんのご参加とご協力をお願いします。

7. 会員卓話 地区委員長会議等の報告

○社会奉仕委員長

委員長 田中 祥秀 君

地区の社会奉仕委員長会議が 2015 年 2 月 7 日(土)にルミエール華月殿で開かれ、出席いたしました。



【活動基本方針】

社会奉仕活動に注力しクラブの活性化とクラブの発展につなげよう。

- ・ロータリークラブの社会奉仕活動は「ロータリーの心臓の鼓動」
- ・奉仕の精神を地域社会のニーズ、シーズに応じて具現化してゆくのが課せられた使命
- ・ロータリーの評価は社会奉仕事業の結果による事が多い
- ・地域で効果的事業の実施により共鳴者も現れ会員の増加を招く
- ・クラブ会員が一致協力し、汗を流しての事業は会員の絆を深める効果を生み活性化に繋がる



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山東 剛一 幹事：中西 秀文 S A A : 山田 裕之

①財団補助金の活用

②継続事業は更に見直し効果アップを致しましょう。

【活動計画】

- 1 高野山の「ロータリー100年の森林」協定再締結
 - 2 識字率向上月間の活動
 - 3 エイズ撲滅キャンペーン

○ロータリー100年の森林について

- 1 國際ロータリー100周年記念社会奉仕プロジェクト
 - 2 地区の社会奉仕委員会は世界遺産に指定された紀伊山地の靈場と参詣道の周辺のバッファゾーンの森林保護に助力を行い後世に残そうと立ち上りました。
 - 3 事業のテーマ
 - 4 趣旨
 - 5 募金額と植樹数
 - 6 植樹の種類
 - 7 管理
 - 8 募金の積み立て
 - 9 認証書



○職業泰什委員會

地区的職業奉仕委員長会議が平成27年3月28日(土)泉大津にあるテクスピア大阪で開催され、出席いたしました。職業奉仕委員長の上松瀬洋さんからの講演が約50分あり、その後グループに分かれ活動報告等がされました。講演では「ロータリーとは職業倫理の集まりです。ロータリーのロータリーコミュニティ奉仕の実践です」

職業…生きていくために所得を得る手段で自分のためのもの

奉仕…世のため

正反対と思える2つの言葉を含む

並反対をしたる】この結果と合併させておき、職業奉仕とは分かりにくいものですが「世のため、人のため、奉仕する心を持って職業を営むべし」といっていい。日本の職業倫理を支えてきたものは武士道の精神である。

武士道…他者を力強く圧倒することではなく、自分自身の心に潜む弱さに打ち克つ修練を重ねること。すなわち日本人の道徳であり、行動の美学である

- 1 東日本大震災の時の食料をより必要とする人たちに配ろうとする少年の話
 - 2 ナボイ劇場建設に関わった日本人抑留者の勤勉実直な働きぶり
 - 3 鎮痛剤を盗んだ少年に野菜スープを持ち帰らせた食堂の店主の結末は…

協力雇用主の会についてのお話
ロータリークラブとして刑務所上がりの人たちの雇用の手伝いが出来るのか否か。

○IM2組 新入会員オリエンテーションの報告

田岡 郁敏 君



3月22日に御坊商工会議所において第2640地区IM2組の新入会員を対象にしたオリエンテーションに参加してきました。当日は雲一つないいいお天気に恵まれ絶好のオリエンテーション日和というかゴルフ日和でした。参加者は山東会長、楠部代行幹事、地区ガバナー補佐として谷脇さん、新入会員として山田裕之さん、田中祥秀さん、そして私田岡の計6名でした。

最初に御坊東ロータリークラブ会長の小池佳史さんより、挨拶があり今日の会の趣旨などを話されました。その後ガバナー補佐で当クラブの副会長でもあります谷脇さんから「IM2組の新入会員を迎えて」というタイトルでお話しいただきました。なかで、ロータリーとロータリーのつながりという事でまず入会したクラブで出席し人脈を築き色々な事業に参加して自分の得意な分野を探して活躍してほしいという話がありました。またメイキャップはロータリーの醍醐味という事で積極的に他クラブの例会に参加し自クラブとの違いや特徴を発見しましたやはり人脈を築いてほしいという事でした。

また、谷脇さんの得意分野でもありますゴルフにたとえてゴルフは心の格闘技というせりふでパットは入ると信じていれば距離が長くても入るし、逆にどんなに短くとも外れるかもと不安に思った瞬間にかたくなってパットが外れるという話が強く印象に残っています。また、最後にロータリー感を持つことを大事にしてくださいというお話をでした。

谷脇さんのお話の後テーブルごとに各ロータリークラブの会長・幹事と新入会員とのフリーディスカッションがありました。私達海南東の3人は有田南ロータリークラブの会長・幹事さんとお話をすることになりました。会長の中善隆さんは葬祭業を営まれるロータリー歴15年の方で、幹事の中知哉さんは大変若い30代前半という事でした。まずお互いの自己紹介のあと中会長より有田南ロータリークラブの紹介がありました。メンバーは現在32名でピーク時の47~8名からはやはり減ってきているとのことでした。例会は毎週火曜日のお昼12時30分から1時30分まで出席率は80%から90%だそうです。服装も厳しい方もいるそうでスーツ着用とのことで着替えが大変だと話されていました。うちの出席率が今悪くて最近60%ぐらいと説明すると少し驚いた様子もありましたが、有田南の高出席率には実は出席免除者という方が10名いるという話を聞きました。どうやら高齢のメンバーにはそういった特典があるみたいで体調不良など申請すれば認められるそうです。この出席率に関してEクラブはパソコンからの申告のみで100%が多いがやはり顔を合わせる出席に値打ちがあると力説されていました。そして例会を欠席した時のメイキヤップですがやはりビジターも年々減ってきているそうでもっとメイキヤップしましょうという事でし

た。うちの IDM にあたるものとしては年 2~3 回家族集会というものがあり忌憚のない話ができるので重要だと言っていました。

また、私は今年プログラム委員だったので卓話などはどうされているか尋ねたところお客様を呼んだときは公務員にはおみやげ、それ以外の外部卓話では謝礼を 1 万円だすことです。ただ会員卓話が多いそうでだいたい年に一度はみんな卓話をするそうです。何回も卓話することでネタ切れの中工夫してその人の性格や人となりが良く解り、会員同士の理解の一つの方法だと思います。

その後各テーブルで話された内容をグループ担当の各会長が発表しました。発表の中でやはり出席率が各クラブ下がっており新入会員には例会に出席して早くロータリーというものを理解してほしいこと、そして女性ガバナー誕生以降なかなかうまくいかない 2640 地区について辟易していることが多いと思いますが正常化を望みながらロータリアンとして頑張ってほしいことなど報告されました。

最後に御坊 RC の会長小池庸子さんより謝辞・総評があり私の初めてのメイキャップでもある新入会員オリエンテーションは終了しました。

初めてお会いする方も大変多かったのですがみなさん気軽にお話しして頂き有意義な一日でした。

8. 閉会点鐘

次回例会

休 会 平成 27 年 5 月 4 日（月・祝日）

第 1830 回例会 平成 27 年 5 月 11 日(月)

夜間例会 18：30～ 海南商工会議所 4 階

お誕生日・結婚記念日のお祝い



ニコニコ・BOX

小椋 孝一 君	先日よりロータリアンの皆様にお世話になります
山東 剛一 君	天候に恵まれてゴールデンウィークに突入のようです。みなさん、しっかり遊びましょう！
山田裕之 君	横出さん、絵のプレデントありがとうございます。
魚谷幸司 君	本日、卓話よろしくお願ひします。
田岡郁敏 君	本日、卓話よろしくお願ひします。



ロータリージャパン

ウガンダ：部族コミュニティーの 存続を看護学校が支援

何千もの間、バトゥワピグミー族はウガンダ南部に位置するブワインディ原生国立公園の中で、シルバーバック・マウンテンゴリラに囲まれながら暮らし

ていました。しかし 1992 年、絶滅の危機に瀕したシルバーバックの保護を目的にこの原生林が世界遺産に指定



されたため、バトゥワ族は故郷を追われることになりました。狩猟採集民から農民になることを強いられたバトゥワ族は、新しい生活になかなか馴染めず、部族の存在自体が危機にさらされていました。このような中、長い年月をかけ、米国、ウガンダ、そしてほかの国々のロータリー会員がバトゥワ族の支援に取り組んできました。最近では、看護学校の設立を通じてウガンダ南西部全体の医療を改善する試みが行われています。

カリフォルニア州の医師でありロータリー会員でもあるスコット・ケレルマンさんは、2000 年、バトゥワ族が窮状に陥っていることを知りました。そこで彼と妻のキャロルさんは医療使節団として現地へ赴き、先住民のニーズを調査することに。スコットさんは自身の目で見た状況を「医療や教育の機会だけでなく、清潔な水や衛生設備も整備されておらず、土地や食料も不安定な状態にある、まさに赤貧」と表現しています。スコットさんの調査により、バトゥワ族の 38% は 5 歳未満で死亡していることが分かりました。これはウガンダ全体の平均値の 2 倍にあたります。また平均寿命は 28 歳であることも判明しました。

病院の建設

最初の訪問から程なくして、夫妻はバトゥワ族を支援するため、医業を含む私財を売り払ってウガンダへと引っ越し、2009 年まで住み続けました。当初、夫妻は木の下で移動診療所を開き、点滴を木の枝に吊るして診療を行い、一日に診る患者の数は 200 人から 300 人、多い時には 500 人もいたとスコットさんは当時を振り返ります。やがて夫妻は基金を立ち上げ、ブワインディ地域病院を設立しました。これに一役買ったのが、スコットさんが持つロータリーのつながりでした。ロータリー財団から一連の助成金を受け、ウガンダや米国、ほかの国々のロータリー会員に支援されたプロジェクトにより、手術室や歯科用装置、太陽光パネル、そして清潔な水の提供が実現し、衛生状態も改善していきました。またこのプロジェクトを通じ、バトゥワ族の人びとは小さな家畜を飼育することで栄養状態を改善する方法も学びました。

現在、乳児死亡率は 6% まで下がり、出産で命を落とす女性の数は 60% も低下しています。「何もかもロータリーのおかげです」とスコットさん。「ロータリーは単に資金だけを提供するではありません。地域のロータリークラブに呼びかければ、現地のロータリアンが集結し、プロジェクトを成功へと導いてくれるのです。ロータリーは幅広い視点でプロジェクトを捉え、『病院の建設は素晴らしい。けれども疾病を予防しなきやならない。給水や衛生状態の整備も必要だ。それに育児について女性に教えることも大切だ』と言

ってくれるのです」。プロジェクトの一環として、マラリア発生の抑制を目的としたプロジェクトでは、部族の治療師を介して各家庭に何千枚もの蚊帳が配られました。「2006年には毎週1~2人の子どもがマラリアで命を落としていました」とスコットさんは振り返ります。「しかし、ロータリーが2万5,000枚もの蚊帳の配布を支援してくれて以来、9カ月間、マラリアで命を落とした子どもはいません。死亡率は90%以上も減少したのです」

看護学校の設立

数年前、ジェームズ・ジェムソンさんとステイプ・ウォルフさんの二人の起業家がこの地域でゴリラを追跡しているとき、スコットさんと出会いました。スコットさんから看護学校の必要性について聞いた二人は、看護学校の計画、設計、建設の費用として65万ドル（約7,600万円）以上の資金を寄付。これによって、2013年11月、ウガンダ・ブワインディ看護学校が開校しました。両氏はさらに、ブワインディ病院で働く正看護師のジェーン・アニヤンゴさんをスコットランドのエдинバラにあるクイーンマーガレット大学へと派遣しました。この大学で看護学の修士号を取得したアニヤンゴさんは、ブワインディ看護学校の主任指導教員となりました。また、この看護学校の全学生に対し、1年分の教科書の内容が詰まつたiPadも提供しました。

昨年は、国際ロータリー元副会長であるジェリー・ホールさんが看護教育者から成る職業研修チームを率いて2週間にわたり同学校のカリキュラムや指導要項の作成、運営体制の準備にあたりました。ホールさんはロータリーの理事だった頃、以前のプロジェクトを介してスコットさんとは面識があり、この病院の戦略計画コンサルタントを務めています。ホールさんが所属するネバダ州のリノ・ロータリークラブは、ウガンダ・キヒヒ・ロータリークラブをはじめとする19のクラブと連携して6万7,000ドル（約790万円）を集め、この資金とロータリー財団からの補助金など合わせて247,000ドル（約2,915万円）が、同学校の備品、教室の机や椅子、実験設備のために役立てられました。職業研修チームが帰国すると、サンフランシスコ大学に所属する一人のチームメンバーは、同大が所有する大量のデジタル情報をアニヤンゴさんが利用できるように手配。また、もう一人のチームメンバーは、看護学のカリキュラムが保存されたUSBメモリをブワインディ看護学校に送りました。「これらのテクノロジーは、ウガンダには今までになかったもの」とホールさん。「私たちの滞在中、ウガンダ看護評議会の議長が開校式に参列し、このようなテクノロジーに非常に驚いていました」ホールさんはこう続けます。「可能性は計り知れません。研修を受けた看護師を集め、地方に派遣すれば、その土地で安全に出産を行い、子育て支援にも従事できる看護師が増えるはずです。これは今までになかったことです」

4月は雑誌月間です
(Magazine Month)

包括的な教育支援をめざして

米国（メイン州）のケネバンクポートサイド・ロータリークラブは、2年前、インドとパキスタンの国境近くにある町、ビーカーネールで学校支援の活動を始めました。



会員の1人であるローヒット・メータさんが現地の出身であり、知り合いがいたからです。現地のロータリー会員と連絡を取り、早速、4つの公立学校に机を提供することになりました。新しい補助金をきっかけに最初の寄贈の後、もっと多くの机が必要だと要請を受けたクラブは、もっと大きな構想を練る必要に迫られました。ロータリー財団の新しいグローバル補助金を利用するには、物品購入だけでなく、根本的な問題に取り組むことが条件となっていましたからです。会員たちは知恵を寄せ合い、机の寄贈というシンプルなプロジェクトから、多くの子どもに教育の機会を与え、教員研修も行うという大きなプロジェクトを立案しました。メータさんは、故郷を助けるこの補助金プロジェクトに心から感謝しています。「故郷のロータリアンたちと一緒に何か活動ができれば、と考えたのがはじまりでした」プロジェクトの範囲を広げる中で、いくつかの課題に直面したものの、その過程でいつも、現地の人びとが協力してくれました。「現地の人は辛抱強く、必要な情報を集め、リクエストに応えてくれました。米国からインドを訪れ、現地の学校を視察したロータリー会員、コーネリア・ストックマンさんは、プロジェクトの計画にあたって、地域の現状を調べました。裕福な家庭は机や教室の整った私立学校に子どもを通わせていますが、それとは対照的に、公立学校では資金不足のため、生徒たちが地べたに座って授業を受けている。義務教育は小学校までとなっており、公立学校にも机があれば、もっと多くの生徒が学校に通い続けるだろうと地元の教育専門家は話します。

より大きな成果を

インドと米国のロータリークラブのほか、学校関係者、地域社会のリーダーも集まって、学校管理委員会を結成し、各校が何を一番必要としているか話し合いました。通学していない子どもがたくさんおり、中には一度も学校に通ったことのない子どももいることがわかると、通学日を週3日制に変更。こうして通いやすい体制を整えたほか、授業のない日は先生が机を使って教授法の研修を受けることになりました。生徒だけでなく先生もサポートすることにしました。生徒1,685人分の机を提供します。また教員240人に研修を行って、基本科目以外にも、生徒が自信をつけ、リーダーシップスキルやコミュニケーションスキルを身に付けられるような授業方法を教えました。前回の机の寄贈だけで、生徒の成績を23パーセント上げることに成功しており、今回のグローバル補助金プロジェクトではさらに高い成果が期待されています。